

破碎くずからアルミ

平林金属西大寺工場



平林金属が西大寺工場に導入、本格稼働を始めたアルミの選別装置

スクラップ処理業の平林金属(岡山市下中野)は、自動車などを破碎して出た非鉄金属くず(ミックスメタル)からアルミニウムをより分ける装置を西大寺工場(同市西大寺新地)に導入、本格稼働した。非鉄金属専門の同工場はこれにより選別体制が整い、処理能力が三―四割アップ。アルミの回収効率も高まるという。

選別装置が稼働

乾式比重分離技術を利用

アルミは用途が広くと粒子が勢いよく流動、液体のように比重差で物質を分けることができる。比重の軽いアルミは浮き、銅や亜鉛などは沈む仕組み。

この乾式の比重分離装置は、岡山大と北九州市の産業関連設備メーカー、平林金属が

を選別しているのは全国的にも珍しい」といふ。
二〇〇七年秋に完成した西大寺工場は、これまで金属と非金属を分ける装置と、渦電流によりステンレスをアルミや銅などと分ける装置を計約一億九千万円で導入。平林実副社長は「三方式を組み合わせることで、素材ごとの選別精度が高められる」と話している。
平林金属は資本金九千九百八十万円。グループ売上高約二百八十二億円(〇八年十二月期)。従業員約二百六十人(パート含む)。(佐藤貴宏)

鉄金属を一定サイズに分けるふるい、アルミを分離する選別槽(横一・五メートル、奥行き〇・六メートル、深さ〇・五メートル)などで構成。選別槽内を微小な金属粒子で満たし、空気を送り込む

平成21年2月18日発行の
山陽新聞朝刊に
記事が掲載されました。

(平成21年2月18日 山陽新聞社より転載許可承諾済)